



## 不活化ポリオワクチンと 4種混合ワクチン

やまもとクリニック  
第1巻 第1号

2012/8/10

### 不活化ポリオワクチン

頻度は少ないのですが、生ワクチンを飲んだ人や保護者など周りの人に、ワクチンの副作用として小児まひが起こっています。

経口生ワクチンによる小児まひを防ぐために、諸外国では1990年代後半から経口生ワクチンを不活化ワクチンに切り替えてきました。2012年4月には不活化ポリオワクチン（IPV、商品名イモバックスポリオ）が製造承認を取得している。日本でもようやく2012年9月1日から不活化ワクチンに切り替わります。

#### ①接種時期と回数

生後3か月から接種できます。3～8週間隔で3回、3回目の約1年後（6か月後から接種可能）に4回目を接種します。2012年9月1日の導入時点では、4回目の接種は定期接種の対象外です。効果と安全が確認された時点で定期接種となる見込みです。

生ポリオワクチン、不活化ポリオワクチン、三種混合ワクチンのいずれかを1回でも接種している場合は、不活化ポリオワクチンを接種します。生ポリオワクチンと不活化ポリオワクチンの合計が4回になるように不活化ポリオワクチンを接種します。ただし、生ポリオワクチンをすでに2回接種している場合には不活化ポリオワクチンは接種しません。

#### ②副反応

まれに発熱や接種したところが赤くなったり腫れたりすることがあります。ワクチンの製造過程でウイルスの病原性（毒性）を完全になくしていますので、ワクチンによる小児まひの心配はまったくありません。

### 4種混合ワクチン

2012年7月27日、沈降精製百日せきジフテリア破傷風不活化ポリオ混合ワクチン（商品名テトラビック皮下注シリンジ、クアトロバック皮下注シリンジ）が製造承認を取得した。「百日せき、ジフテリア、破傷風及び急性灰白髄炎（ポリオ）の予防」が適応であり、初回免疫は3週間以上の間隔を空けて3回、追加免疫では初回免疫後6カ月以上を空けて1回、それぞれ1回0.5mLを皮下注する。

今回、承認されたワクチンは、既存のDPTワクチンに不活化ポリオワクチンを混合した4種（DPT-IPV）混合ワクチンである。混合することで、別々に摂取するよりもワクチン接種回数を減らし、乳幼児や保護者の負担を軽減する。承認時までの臨床試験から、生後3か月以上90か月未満の小児に、既存のDPTワクチンと同様のスケジュールで1回0.5mL皮下接種することで、百日せき、ジフテリア、破傷風、ポリオの予防に有効性であり、安全であることが確認されている。

厚労省では、今回承認された4種混合ワクチンを2012年11月から導入することを目指しています。

当院でも平成24年9月10日から不活性化ポリオワクチン並びに11月（予定）4種混合ワクチンの接種をいたします。生後2か月から種々ワクチン接種が始まりますが、そのスケジュールを立てるにアドバイスさせていただきます。